ベトナム・ハノイから見た日本―28 歳女性の場合
② 若い世代に降りかかる住宅難の呪縛

「東南アジアは常夏！」と思っている方もいるんじゃないでしょうか。私がハノイに転居したのは今年の 2 月。その日から毎日、ダウンコートが手放せませんでした。前回は、日本の会社を辞めたきっかけや、ハノイの就職先を決めるまでを書きました。今回は、勤務開始までにしなければいけない「家探し」と、ハノイの住宅事情についてご紹介します。

■家はフランス風？冬に弱い構造

ハノイに降り立ってすぐ、家探しです。就職を紹介してもらった会社を経由し、地元の不動産会社には「会社から徒歩圏内、予算は月 500 ドルまで」と伝えてありました。ベトナムでは日本語が、英語、中国語に続くメジャーな外国語ということもあり、日本語対応ＯＫの不動産会社もいくつかあります。あまり多くない候補を見て回り、２ＤＫの部屋を契約しました。基本的にどこも家具付きなので助かります。

ベトナムでは、「中華料理を食べ、フランス風の家に住み、日本人と結婚するのがよい」という言い回しがあります。「フランス風」をこの地では、「天井が高く、門のある家」と解釈しているようで、コンクリート造り（鉄筋が入っているのかどうか不明）の天井の高い家はとにかく寒い！夏には涼しい構造ではあるのですが。

ガス、水道代込み、電気代別で月々550 ドル。給料に比べればかなり予算オーバーですが、会社までのほどよい距離が気に入り、とりあえず契約。日本人留学生の子は 300 ドル台の家が多いようです。物価に比べて家賃の高いハノイ。外国人だけでなく、ベトナム人の間でも住宅難です。要因は、急激に進む都市化にあります。

■賃貸の家に住む人は「かわいそう」

ベトナムでは、日本人以上に「持家志向」が強い。もしかすると、市場経済が発達するにつれて賃貸の比率が高まるものかもしれません。ベトナム人の間には「賃貸の家に住んでる人はかわいそう」という意識があります。ただ、ハノイの家は安くない。ハノイの（都市部の）一般的な家は、1 フロアが 100 ㎡ほど、これが 4～5 階まであり、2 世帯か 3 世帯で住んでいる。いわゆる「ペンシル型」と呼んだりもします。道路に面している場合には、50 万ドルくらいするそう。円にすれば 4000 万円。日本人でもかなり長いローンを組まなくてはいけません。しかも、ベトナムでは一般的に、ローンを組むことはできないようです。10%以上という金利の高さや、信用力のない人が多いということからでしょうか。

こうして、人はコツコツコツコツ、共働きでお金を貯め続け、子供が結婚するころにようやく、家を買えるかどうか。「実家では、大学生まで弟と同じベットで寝てたよ」と、同僚の General Manager。急速な都市化と人口増加、外資企業の投機的な開発などで土地が高騰し、現在はひと段落しているとは言え、今度は地価下落による不況。つまるところハノイの人は住まいを見つけるのが簡単ではありません。

■田舎から出てくる若者たちの居場所

というわけで、賃貸物件の少ないハノイ。問題となっているのは、若者や若い世帯の劣悪な住環境です。後に仲良くなり、ベトナム語の先生をしてくれた 24 歳の女の子、Thanh（タイン）の家に行ったことがあります。長屋になっている部屋の一つで、広さは 6 畳ほど。中にはござが敷かれたダブルサイズのベッドと小さな机、カラーボックスの上に一口のガスコンロが置いてあります。学生時代から住んでいるというこの部屋に、友人の女の子と 2 人暮らし。トイレ、シャワーは共同。洗濯は手で、井戸の水を使ってやります。パソコンはないけど、ホンダのバイクはみな 1 台ずつ持っている。

田舎から進学や就職のために都会に出る若者に、あまりスペースはありません。「あと数年働いて、キャリアができたらハイフォンに帰りたい」。長屋友達と楽しそうにしながらも、彼女はそう話していました。（続く）